大館市政だより
第五十二号（毎月一回発行）
発行所　秋田県大館市　大館市役所
編集兼発行人　田村正六

定例市議会終る

補正予算など四十七件を原案可決

□……大館市定例市議会は十一月五日から十八日まで市議会議事堂で開かれ……□
□……補正予算案など四十二件におよぶ提出案件を可決、十四日間に亘る会……□
□……議の幕を閉じました。……□
□……冒頭市長はさきの市役所職員の不詳事件に言及、内外に深くこれを陳……□
□……謝するとともに、本定例会が自治庁における財政再建計画変更の事前……□
□……協議の関係で遅れたことを述べ、その変……□
□……更の理由と、それに伴う補正予算などに……□
□……ついて大要次のような説明を行いました……□

今回の財政計画を変更した主な理由については

①火災に伴う復旧事業と既定計画外事業で来年度完成したい事業がかなりあること。

②公債費、起債の償還費に変更を生じたこと。

③国家公務員の給与改訂に準ずる市職員の給与改訂とこれに伴う人件費の増額変更を必要としたこと。

④当初計画に比較し諸物価の騰貴による物件費の増額を必要としたこと。

⑤超過勤務手当を約三%支給する財源と、生活保護費、その他寄附金、負担金等の増額変更を必要としたこと。

以上のような理由から最初の財政計画の変更を自治庁と折衝しましたが、大体本市の計画と大差なくまとまつたこと。

また補正予算の大要については消費的経費が約一千九百万円の増額となつており、この中には前述の職員の給与改訂昇給或は時間外勤務手当、物価騰貴による物件費の増、工場誘致、新市建設計画調査費生活保護費、鳳鳴高校体育館新築費地元寄附金などが含まれていること。

投資的経費で今回追加された額は六百八十二万余円であり補正した主なものは火災復興都市計画事業の三十二年度分を減額したこと、これは区劃整理事業などともあわせて第三年度に多く実施したいと考えていると。二井田大橋の復旧事業、宗福寺線街路事業、防火建[illegible]促進事業などがあること。

公債費は三百三十九万九千円減額しているが、これは借入の時期のズレ、或は償還年次の延長等による元金、利子に減額をきたしたことなどであります。

＜写真は市議会本会議場＞

定例市議会提出案件

◆専決処分の承認3件（保滝沢地区開拓不用地買収・中山地内併用林道布設申請・二井田駐在所改築用木材特売申請）◆市税条例の一部改正◆手数料徴収条例の一部改正◆国民健康保険条例の一部改正◆市営住宅管理条例の一部改正◆市職員の給与に関する条例の一部改正◆市長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正◆教育長の給与等に関する条例の一部改正◆単純労務に雇用される職員の給与の種類及び基準を定める条例の制定◆国民健康保険運営協議会委員の委嘱◆固定資産評価審査員会委員の選任◆教育委員の任命◆教育委員（補欠委員）の任命◆請負契約締結の件（中層耐火災害公営住宅）◆契約の方法について同意を求める件3件（二井田大橋杭打工事及び二井田中屋体新築・一中校舎増築・釈迦内小改築・川口小増築・茂内屋敷分館新築工事並びに茂内屋敷建物の売買契約）◆寄附採納2件（小型動力ポンプ購入費・中山線道路工事費）◆財政再建計画の変更◆特別会計設定（桂城土地区画整理事業費◆一般会計才入才出予算の追加更正2件◆国民健康保険特別会計才入才出予算の更正2件◆特別会計恩給基金才入才出予算の追加更正◆特別会計公益質屋才入才出予算の追加更正2件◆特別会計上水道事業費才入才出予算の追加更正2件◆特別会計温泉開発才入才出予算の追加更正◆簡易水道費才入才出予算の追加更正◆特別会計青果卸売市場費才入才出予算の追加更正◆特別会計桂城土地区画整理事業費才入才出予算◆公平委員の選任◆公平委員（補欠委員）の選任◆議決内容の一部変更◆契約の方法について同意を求める件3件（温泉堀さく・給湯管新設工事・大滝橋取付道路工事・増改築による旧建物の売買契約の件釈迦内小・川口小）

追加更正予算

総額四億一千万円

消費的経費の当初予算額は一億八千八百九十六万三千円であつたものが今回の追加更正額一千九百十三万五千円で合計二億八百九万八千円となります。このうち人件費の増が四百二十三万九千円、物件費三百六十九万五千円、その他が一千百二十万一千円となつております。

投資的経費では当初予算の一億四千二百二十八万一千円に今回の追加分六百八十二万三千円で合計一億四千九百十万四千円、その主なものは公共事業費五千七百四十四万二千円で千二百八十一万二千円の減となつたのに対し、単独事業費七百六十七万六千円の増加で総額三千六百四十二万六千円、公共災害事業が百六十九万円の増加で三千三十四万一千円、単独災害事業の新規計上分が一千三百九十五万四千円、失業対策事業が一千九十四万一千円で三百六十八万五千円の減、これは法の改正に伴う減額であります。

公債費、起債の償還費は五千九十七万円で三百三十九万九千円の減、以上の通りで、才出の当初予算額三億九千百二万二千円に対し、今回追加更正額二千二百五十五万九千円で総額四億一千二百六十八万一千円となります。

才出の構成について、これを三十二年度決算見込による当市と、類似団体のそれを比較してみると、消費的経費では当市の五〇%に対し、類似団体のそれは五六%で六%低く、また投資[illegible]経費では当市の三六%に対し二八%で八%多くなつております。これをみても当市の財政運営はその方針に添つてかなりの無理を押し切り建設事業にその多くを投入していることがうかがえると思います。

補正予算にみる主な事業

投資的経費に依る事業の内容をみますと▼公共事業①火災復興都市計画事業、本事業費の減額は土地区劃整理事業の進行と平行して行われる関係によるもの、建設省と協議の結果一年延長三十三年度を最終年度として完成②宗福寺線街路事業、これは末広町から片山に抜ける道路で花輪線と立体交叉をおこなわすもので将来国道編入を予想、本年度陸橋架設の計画を変更し、片山側取付道路着手、明年度から陸橋に着手しようとするもの③大茂内線開拓道路工事④石淵林道新設⑤防火帯建築事業全体計画中本年実施は床面積で七千五百三平米（国県市合計補助額約三千三百万円）▼単独事業（追加分）①真中支所新営費②合津分校新営費③真中公民館新営費④茂内公民館新営費⑤桂城小の増築事業（一部計画未了）⑥中山沢林道建設事業⑦二井田駐在所の新営事業⑧鳳鳴高校附属校舎新営事業⑨釈迦内東線の改良事業⑩山館、中山線の新設事業▼公共災害事業①養老院災害復旧事業、これは現在布地は環境、面積狭隘などから不適格と考えられるので本年度建設を見合せ移転を考慮▼単独災害事業（追加分）①二井田大橋復旧事業（工事費約二千五百万円）これは約二千万の起債内定、三十二年度（下部工）と三十三年度（上部工）の二カ年の継続事業、②駅前分遣所の新営事業③災害住宅の附帯事業

財政白書の概要③

市の財政報告（4―9月の財政事情）の概況については前号より掲載し ① 収入及び支出の状況，②住民の負担の状況 ③ 公営事業の経営概況の三点については前号において一応概説したとおりでありますが・本号では残されている ④ 財産，公債及び一時借入金現在高について，そのあらましをみることにしよう

財産の概況は次のとおり

◆基金

基金の総額は九百五万八千円、この種類別内訳では①基本財産六百四十六万三千円②罹災救助百五十二万九千円③奨学基金一万五千円④公営住宅新築基金百三万八千円⑤楽園基金一万三千円となつており、更に有価証券の総額百二十一万六千円、内訳では基本財産百十六万一千円、罹災救助基金五万五千のようになつています。

◆不動産

不動産の現在地積を種類別にみると次の通りです。

▽宅地四〇、四八一坪▽学校布地一二五、八九二坪▽原野九、〇九六反▽山林二、三七七反▽公園布地一四、五二二坪▽墓地一三、九〇七坪、▽建物①学校一六、九三九坪②市二、七二七坪、立木二三九、四五九石▽公営住宅三、五七四坪▽田畑二三五反▽財産区一三、五五五反と以上のようになつています。

公債總額三億九千万円

◆公債

長期借入金現在高は総額三億九千四百四十二万九千円で会計別では一般会計三億六千二百八〇万三千円（九二%）特別会計三千一百六十二万六千円（八・〇%）の様になつています。長期借入金の内、本期中における借入額は七千三百六十万円で同償還額は一千二百九十八万九千円となつています。

借入金現在高を借入先別にその割合をみますと、▽大蔵省資金運用部六四・九%▽郵政省簡易保険局一六・五%▽厚生省〇・三%▽秋田銀行一七・二%▽全国市有物件災害共済会〇・五%▽その他〇・六%の様になつており、これを更に借入の目的別についてみると、一般会計に係るものでは、一般公共事業費一二・四%一般単独事業費一四・五%義務教育施設事業費一九・四%公共災害復旧事業費一二・〇%単独災害復旧事業費三・一%退職手当債資金二・四%事業分担及び負担金一・七%財政再建債資金二六・五%の様になつております。また特別会計に係るものでは国民健康保険再建資金〇・七%公益質屋事業〇・五%上水道事業費六・八%のようになつています。

◆一時借入金

本期中における一時借入金の総額は一億五千九百万円、うち償還済額一億一千五百万円で現在残高は四千四百万円となつています。現在残高の借入先別では秋田銀行二千九百万円、郵政省簡易保険局千五百万円となつておりますが一時借入金は一時的な財政操作のためのものでありますので年度内に全額償還されます

□　□

以上三回にわたり市財政白書の概要をのべましたが最後のむすびとして同白書は、昭和三十二年度上半期における財政事情を展望するに今後一層の財政逼迫が予想されるが健全財政確立のためには、まづ経費の合理的、効率的使用と税収の確保を基本方針としてその運営に遺憾なきを期さねばならない。とむすび、自己財源、即ち市税の収納に当つては今一層の理解と協力を望んでいます。

各種委員きまる

定例市議会において新しい各種の委員が次のようにきまりました。（）内は住所

◆国保運営協議会委員
▽被保険者代表佐々木与一（長面袋）越姓玄恵（出川）▽医師歯科医師代表＝武茂信雄（長倉）伊藤孝次郎（同）▽公益代表＝佐藤猪太郎（川口）松賀博治（部垂町）
◆固定資産税評価審議委員会委員―越前谷儀一（釈迦内）
◆教育委員会委員―緑川大三郎（松木境）
◆教育委員（補欠委員）坂上正一（二本杉下）
◆公平委員―中村嘉七（片町）
◆公平委員（補欠委員）―石田良一（下代野）

市役所の就業時間変る

十二月一日から明年三月三十一日まで、市役所（支所を含む）の就業時間が次のように変りました。▽就業始め午前九時▽昼休み十二時から十二時三十分▽終業午後五時

市勢

―③―

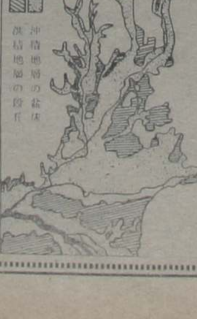
大正5年小坂鉄道花岡支線，同12年国鉄花輪線（当時秋田鉄道）の開通とともに，道路網の開さくによる自動車輸送の急激な発達に伴つて，従来の米代川水運による交通輸送は，全くその様相を変革するにいたつた。交通網の中心化した大館は，勢い県北地方における豊饒な農林，鉱工業生産及び，その集散地としてめざましい発展をみるに至つた。昭和26年4月1日大館町，釈迦内村が合併し市制を施行し，更に同28年町村合併促進法の公布施行されるや大館は，いち早く1市4町10ヶ村（大館市，扇田，十二所，花岡，早口の4町，矢立，長木，山瀬，下川沿，真中，二井田，上川沿，東館，西館，大葛の10ヶ村）の大同合併の構想を打出し，その強力な実現を図つたが昭和30年に至り1町5村，即ち，同年3月1日，長木，上川沿，下川沿，二井田，真中の5村を，更に同月31日十二所町を編入合併するにおよんで世帯数9286，人口53274人を擁する新市の誕生をみるに至つた。昭和28年4月（片町官庁街）同30年5月（大館駅前）同31年8月（中心商店街）と相次いで発生した大火にもめげず新市大館は愈々県北地方における政治，経済，産業，文化の中心都市として，名実ともに発展への巨歩を運んでいる。

位置，地勢，地質

大館市は秋田市を距る北方約100粁，北緯40度16分，東経140度32分（中心市街地）に位し，奥羽山脈の低地に形成された広大な大館盆地を有し，その広ぼうは東西22粁，南北31粁，面積318,96平方粁である。北は花矢町，長木沢国有林を以て青森県と境し，東に鹿角郡，西に田代，鷹巣の両町，南に比内町と，それぞれに接し，三角状の市域を構成している。本県における三大河川の一つ米代川が市域南部を東より西に流れ，更に中央附近を横断する長木川は市域の西端下川沿地区において米代川と合流し，遠く日本海に注がれている。国道7号線は国鉄奥羽本線に，また国道十和田大館線（八戸，大館線重用）は国鉄花輪線にそれぞれ相並んで布設され私鉄小坂鉄道及び同花岡支線の外，県道，市道が四通八通この地に集中し，農林産，鉱工業生産物等集散の要衝となつている。田園は市南地，米

毎月の統計

世帯と人口（住民登録11月1日現在）世帯数 10,509
人口 58,977
男 29,187　女 29,790
10月の人口動態と戸籍統計
出生 95　死亡 39　転入 176
転出 169　婚姻 51　離婚 9
養子縁組 4　同離縁 0

大館盆地